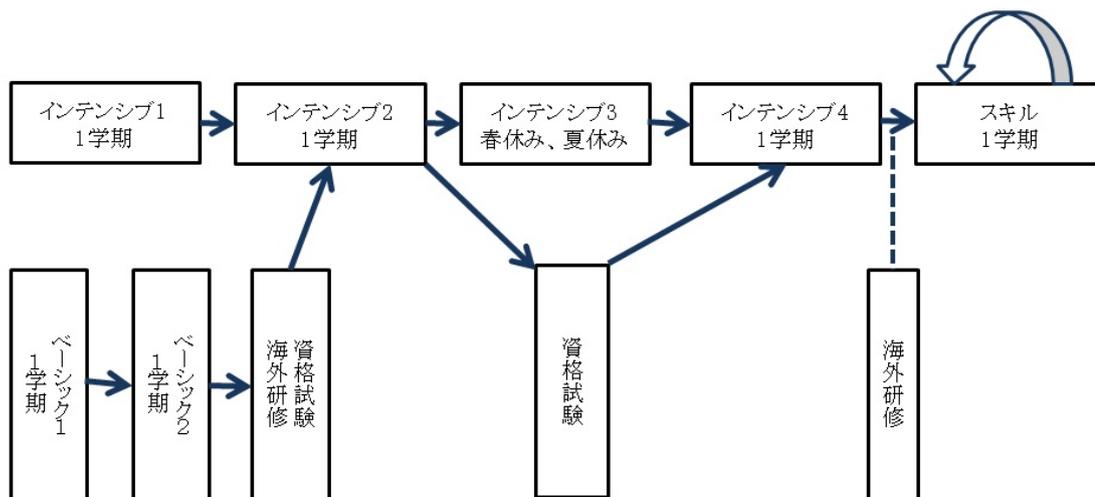


2014 年度 外国語電子教材作成支援 報告書

プロジェクト NO.	研究課題名	代表者	所属
3-13	スペイン語ベーシック1・2、インテンシブ1~4、スキル	山本 純一	環境情報学部

I 研究の背景

本研究は、SFCの外国語教育の一拠点スペイン語研究室として、日々変化する電子媒体による学習環境をかんがみ、目標としてWebを活用した学習者主体のスペイン語LMS（Learning Management System）を構築することを掲げる。SFCのスペイン語は、2014年度から以下のようにコースが変わった。



インテンシブ開講当初のコースの目的は、スペイン語の「発信型」、つまり「スペイン語で意見を表明できる」コミュニケーション能力の育成だった。その後、二回に及ぶ大きなカリキュラムの改定を行い、14年度は、新しくなったコースに対応すべく、新バージョンのHPへと改定を続け、さらにWeb上へ新教材の追加と、旧教材のバージョンアップを図った。

2 教材開発の目的と課題

2-1 目的と課題

2013年度までに開発したスペイン語コース全般で活用する基幹のウェブ教材のバージョンアップ

- 1 スペイン語ベーシック1・2、インテンシブ1・2の初級レベル対象、スカイプ会話教材の新規開発
- 2 スペイン語全コースのウェブ教材の改定と、バージョンアップ
- 3 文法教材の追加と更新
- 4 新インテンシブ2用のパワーポイント媒体の発話教材開発

2-2 本プロジェクトで作成した教材

2-2-1 スカイプ会話教材の新規開発

従来、留学前の会話力の向上を目指しアウトプットの場を提供し、スペイン語圏で生活ができるレベルの会話力を習得する事を目的として開発されたものである。Skypeを通してネイティブスピーカーと対話をし、最終的には会話力の向上だけでなく、スペイン語で会話できることの「喜び」や「達成感」を得て、学習意欲の向上に役立つことを目標とする。しかし、現実的には、コンテンツが第2課までしか、作成されておらず、また、学生用のマニュアルまでは準備されていたが、教員用のスペイン語マニュアルができていなかった。

た。そこで、今回、内容をさらに充実させること、そして、スペイン語による教師用マニュアルの作成が大きな追加作業となった。スペイン語のマニュアル作成や教材開発は、マドリッド在住のスペイン人大学院生の協力を得た。

従来の「会話」重視ではなく「文法」を重視した上で、直接会話で実践するというコンセプトに変更をした。コンテンツの追加は以下のとおりである。

- 1 ser y estar
- 2 ir y tener
- 3 hacer y poder
- 4 querer y gustar
- 5 repaso y todo

各課の語彙、文法項目の確認、それからモデル会話を予習し、それからネイティブと実際に会話を始める。授業後は、ネイティブからのフィードバックを受ける。さらに、次の機会までに、フィードバックを受けたものを宿題として作成する。

以上の流れで、コンテンツを増やし、初めてネイティブ教員の役割を振られても、すぐにどのような対応が求められるのかがわかるような、スペイン語版のマニュアルを作成した。

2-2-2 全コースのウェブ教材の改定と、バージョンアップ

スペイン語の全教材は、ムードルで作成されているが、ITCの一斉のシステムの改訂に伴い、2013年までに開発されたムードルが、使用できなくなるという大きな問題が生じた。そこで、ITCと、スペイン語研究室で、大きな教材のアップデート作業を行った。学期の途中では、教材を更新できないため、予備のシステムを導入して、学期が終了した休暇中に、更新作業を行った。正確に言えばまだ、2月、3月にこの更新作業が続いている。

2-2-3 文法教材の追加と更新

Para y Por 前置詞特化学習用 WEB 教材

Para と Por に焦点を当てつつ、他の前置詞も取扱い、インプットだけでなくアウトプットもできるように作成した。この教材を活用し、最終的に、Para と Por をはじめ、スペイン語の前置詞が習得できることを目指して開発された。

スペイン語の資格試験のレベルを意識しながら、A1, A2 レベルから初めて、B1, B2 のレベルの成句までカバーすることを目指した。

～Para と Por とは～

スペイン語の「Para」と「Por」とは、英語の前置詞の「for」に似ている。しかし、英語で「for」が担う意味を、スペイン語では「Por」と「Para」の二つの前置詞で、使いわける。さらに、「for」だけでなく、「at」や「to」などの前置詞にも対応することもあり、学習者を悩ませる。では、どのように、学習していけばいいだろうという学習者の悩みに答えるための教材である。

① 概説・・・ベーシック1 & 2、インテンシブ1

② 応用・・・インテンシブ 2

③ 番外編・・・インテンシブ 4 & スキル

クラスに応じて自分に適した教材にアクセスできるように開発した。

開発には、スペイン語の教材である Viaje al español から、para, por の例文を抜き出し、レベル別に分類、各使用の解説、問題演習をつけている。

2-2-4 新インテンシブ 2用のパワーポイント媒体の発話教材開発

この教材は、会話をしようとした時に、話したいことは頭の中にはたくさんあっても、口から出てくるスペイン語は頭の中にある話したいことと大きくかい離してしまうという学習者の体験と、現在のSFCのスペイン語のカリキュラムではネイティブスピーカー1人で20人近くの学生を相手に授業をするため、思うようにスペイン語で話す機会が少ない、という指摘を受け、特に会話は、口に出した言葉は消えてしまい、形に残らず、結果として学期後、学んだことを記録できていないという指摘に対処するために開発された。

図：1 ウェブ教材の全容

アルバロ/パトリシア 授業資料	アルバロ/パトリシア 授業提出
第1回(9月25日) 第1回配布資料	Dia2(10/2)
第2回(10月2日) Dia2.pptx 第2回配布資料	Dia3(10/9)
第3回(10月9日) 第3回配布資料 Dia3.pptx	Dia4(10/16)
第4回(10月16日) 第4回配布資料 Dia4.pptx	Dia5(10/23)
第5回(10月23日) 第5回配布資料 Dia5.pptx	Dia6(10/30)
第6回(10月30日) 第6回配布資料 Dia6.pptx	Dia7は紙のままスペイン語研究室まで提出してください。 (授業時間内に提出できなかった方)
第7回(11月6日) 第7回配布資料 Dia7.pptx	Dia8(11/13)
第8回(11月13日) 第8回配布資料 教材アンケート Dia8.pptx	アンケート提出
第9回(11月27日) 第9回配布資料 Dia9.pptx	Dia9(11/27)
第10回(12月4日) 第10回配布資料 Dia10.pptx	Dia10(12/4)
第11回(12月10日) 第11回配布資料 Dia11.pptx	Dia11(12/11)
	遅延提出用
	遅延提出1
	遅延提出2
	遅延提出3
	遅延提出最終
	スキット原稿
	スキット原稿提出
	最終アンケート提出
	木曜日最終アンケート提出

2014年度の春学期に一度、仮導入し秋学期に開発した教材を使って、インテンシブ2の授業を行った。実際に電子教材にしたメリットは、学生の成績の管理が容易になったことである。たとえば、以下の図はモデル上で管理されている学生の課題提出状況である。学生が課題を提出した記録が記載され、また、訂正して再提出をすること、また、最終版を電子版で保存できることで、実際に会話の記録が残っていき、会話

教材でありながら、文字版で保存できるようになり、学生が不満に感じていた会話が残らないという欠点を補うことができるようになった。

図2： eラーニングシステム上の提出状況管理画面



また、この電子教材は、学生の提出物を教員が長く保存できることで、授業の改善につなげることができる。紙媒体の場合、学生に返却をすると、その後何が書かれていたのかを把握するのは難しい。コピーを取ったとしてもかなりの量になり保管が大変だが、電子媒体では、保管する場所に制約がなく、インターネットに接続できる環境さえあれば、どこでも学生の提出物を閲覧することができる。また、本教材は、eラーニングシステムを利用して提出する際に、パワーポイントを用いているので、学生の文章を一つのファイルに集めた際に、スライドの移動で順番を変えることができるなどその後の編集も簡単である。

3 研究成果物

スペイン語研究室 HP : <http://estudio.sfc.keio.ac.jp/> こちらから以下にアクセス可能。

全コースのウェブ教材の改定: <http://estudio.sfc.keio.ac.jp/el/>

Para と Por: <http://estudio.sfc.keio.ac.jp/el/course/view.php?id=40>

Skype 教材:

<http://estudio.sfc.keio.ac.jp/%e7%a0%94%e7%a9%b6%e5%ae%a4%e6%97%a2%e5%ad%98%e6%95%99%e6%9d%90-2/%ef%bd%93%ef%bd%8b%ef%bd%99%ef%bd%90%ef%bd%85%e6%95%99%e6%9d%90/>

表現練習教材:

<http://estudio.sfc.keio.ac.jp/%e7%a0%94%e7%a9%b6%e5%ae%a4%e6%97%a2%e5%ad%98%e6%95%99%e6%9d%90/>

文責 寺田裕子(総合政策学部 訪問講師(招聘)) hterada@sfc.keio.ac.jp